

# Top Interview

理事長インタビュー

## 「新体制による 新たな船出」

経営のバトンを引き継ぎ、  
これからも地域のお客さまの信頼に  
応えていきます。

21年ぶりの理事長交代となり、  
新たなステージを歩み出した広島市信用組合。  
その経営方針と将来の展望について、  
中野理事長にうかがいました。



### 地域の活性化に貢献するための強固な経営基盤構築。

— 日本経済や広島の地域経済についてどのように見えていますか。

今日の日本経済は、世界的な不確実性の高まりを背景に、先行きに慎重な見方が広がっています。米国の通商政策に加え、中東情勢の緊迫化による原油価格の高騰で企業活動への影響が懸念されるなど、先行きには不安定な要素が多く残っています。物価高や人手不足といった国内要因も重なり、特に中小零細企業にとっては厳しい経営環境が続いています。広島県内の経済情勢も、こうした外部環境の影響を受けやすい状況にあります。主要産業である自動車関連は、世界経済の動向に左右されやすく、生産・投資の動きは地域全体の景気に直結します。一方で、観光やサービス業を中心に回復の兆しも見られますが、先行きには引き続き注意が必要です。

このような環境下で、地域金融機関の役割は一段と重要性を増しています。資金繰りに悩む中小零細企業のニーズに応え、地域を支えるという使命を果たすことで、地域経済と暮らしの安定に貢献していきたいと考えます。

— そうしたなか、業績が好調のようですね。

おかげさまで、令和8年3月期決算において、経常収益は23期連続の増収、過去最高を更新。経常利益、当期純利益も過去最高を更新しました。このような好調な業績をあげることができたのは、投資信託や生命保険の販売には目もくれず、「預金」と「融資」の本来業務に特化したシンプルな経営を愚直に継続してきたからです。また、不良債権のオフバランスと将来を見据えた予防的な引当を積極的に実施し、資産の健全性向上にも努めています。これは、株式会社日本格付研究所(JCR)の長期発行体格付の評価にも表れており、預貸業務に特化したスピード重視のビジネスモデルによる「高い収益力」「自己資本の充実による安定経営」と「健全な資産内容」等が高く評価され、この5月に「A+」(シングルAプラス)の格付を4年連続で取得しました。これは地域の協同組織機関である信用金庫・信用組合の中ではトップに位置しています。こうした高い評価を糧に、今後もより一層の研鑽に努め、地域に貢献してまいります。

## 中小零細企業を支える「最後の砦」としての覚悟。

### — 本業の中でも特に融資を重視している理由は何ですか？

地域経済を支えているのは地元の中小零細企業であり、お客さまの資金ニーズに応え、継続して応援していくことが地域金融機関である当組合の使命と考えているからです。もちろん、融資にはリスクがつきものですが、お客さまが困っている時こそリスクテイクし、手を差し伸べることが大切です。お客さまに寄り添い、今何を必要とされているのかを見極める。現在のように世界経済、日本経済が不安定な時こそ、正面から向き合う覚悟がなくては、真のパートナーとして認めていただけません。お客さまより強固な信頼関係を築くためには、こうした姿勢が不可欠であると考えます。

### — コンプライアンスを大切にしていますね。

お客さまからの信頼を積み重ねていくことはたいへんですが、失うのは一瞬です。どれだけ業績をあげていても、たった一度のコンプライアンス違反で組織の屋台骨は揺らぎ、失われた信頼を取り戻すのは非常に困難です。お客さまの命の次に大切なお金と、これに関わる情報を扱っていることを認識し、金融機関のもつ公共性と社会的責任の重さを常に心に刻んでおくことが大切です。これからも役職員一人ひとりが襟を正し、さまざまな状況・場面においても正々堂々、愚直に取り組んでいきます。

## 「会って話せる」強みを活かすための店舗計画。

### — 店舗をリニューアルする意義は何ですか。

地元のお客さまに気持ちよくご来店いただき、便利で快適にご利用いただける店舗を充実させることで、より身近な金融機関になることができると考え、店舗リニューアルを計画的に実行しています。今期は11月に戸坂支店の新築移転を予定しており、以降も新築移転や建替計画などを順次進めていきます。また、オープン1周年を迎える南支店と鷹の橋支店など、各支店の周年運動を継続することで、着実に営業基盤の拡充がはかられています。オープン、周年の運動は新規開拓の好機であると同時に、地域のお客さまとの信頼関係をより深める良い機会となっています。

### — お客さま目線に立った対応をするうえで大切にしていることは？

現場を歩いて、歩いて、歩き抜くことです。お客さまと真の信頼関係を築くためには、お客さまのことをよく知る必要があります。だからこそ「フットワーク」と「フェイス・トゥ・フェイス」が重要になるのです。お客さまのもとに足繁く通い、常日頃から顔を合わせておくことで、小さな変化にも気づくことができるのです。こうした営業スタイルは、昨今のスマートフォンやコンビニでできる金融サービスとは真逆のように思われがちですが、当組合の「会って話せる」という現場主義は最大の持ち味であり、他の金融機関では簡単に真似のできない独自のスタイルであると確信しています。



「真心」の像

## — 人材育成や働きやすい環境づくりに力を入れていますね。

今年度も多くの職員が入組しました。人口減少や少子高齢化が急速に進むなか、職員はかけがえのない財産であり、一人ひとりが将来のシンヨーを背負って立つ大切な人材です。そのため、人材育成には力を入れ、店舗の新築移転オープンを応援するローラー活動もその一環として活用しています。お客さまのもとに訪問することは営業の基本であり、現場で得られる経験は何事にも代えがたい貴重なものです。店長をはじめ各職員がこれまで培ってきた経験や知識を部下や後輩に伝えていくことで、将来にわたって地域に貢献するために必要な現場主義の営業活動を継承しています。融資によって地域に貢献できる「融資大好き人間」を育てるために、休日勉強会や外部研修なども積極的に開催し、職員がレベルアップできる環境を整えています。また、女性や若手職員の登用にも引き続き力を注いでおり、課長職、代理職および係長職を積極的に配置しています。女性職員の育児休業からの復職率は96%以上で推移しており、男性職員の育児休暇も奨励していきます。そのほか、デジタル化・IT化による業務効率の改善などを推進し、職員が働きやすい職場環境を作っていきます。



府中支店2周年の応援ローラー活動



ミーティング

## 「一番頼りになるコミュニティ・バンク」をめざして。

### — 今後の目標を教えてください。

現在の金融業界は他業種からの参入やネット銀行の台頭により、大きく変化しています。デジタル化で各種の金融サービスが非対面で受けられるようになったほか、各金融機関では金利の引き上げなどによる預金獲得競争が激しくなっています。こうしたなか、当組合はブレずに本業特化と現場主義の経営方針を愚直に継続していきます。足を使った営業は一見非効率に映るものですが、これが足腰の強さとなり、結果的に高い効率を生み出すのです。一軒一軒お客さまのもとへ訪問し、課題に向き合い、真摯に対応していく。こうした地道な営業活動がお客さまの安心につながり、取引の深耕につながると確信しています。

今年のスローガンである「継続に楽し」のとおり、本業特化や現場主義といった当組合の経営方針をブレることなく継続していくことは決して楽ではありません。役職員一人ひとりが地道に努力し、日々の仕事に真摯に向き合い続ける。この当たり前のことを当たり前続ける力こそが強みであり、経営基盤を一層強固にし地域の活性化に貢献するためには不可欠なものです。新体制のもと、これからもお客さまとともに成長を続け、地域金融機関として使命を果たせるよう、役職員一丸となって邁進してまいります。



イメージキャラクター大野豊さんのポスター  
(令和8年度)

## 地域とともに 皆さまとともに

### ■ 旭日小綬章受章

令和6年秋の叙勲において、山本理事長が旭日小綬章を受章されました。この章は日本の栄典「旭日章」のうち勲四等に位置づけられる勲章であり、国や公共に対して功労のある者、とりわけ顕著な功績があるものに送られます。全国の叙勲者は3,987名、うち広島県では99名が選ばれました。

山本理事長は平成17年6月の理事長就任以来、一貫して広島経済を下支えしている中小企業を応援し、平成23年版の中小企業白書には地域密着型金融のモデル事例として「理事長自ら中小企業を訪問し、顔の見える関係を築いている金融機関」のタイトルで紹介されました。

さらに、平成25年6月からは全国信用協同組合連合会の会長を務め、同年9月から11月にかけて全国9ブロックで開催された「しんくみ経営戦略会議」（全国信用組合中央協会、全国信用協同組合連合会共催）に出席して、「お金は貸すのではなく、使っていただく」の取組姿勢を説かれ、視察や講演の依頼にも対応してきました。

当組合および信用組合業界の健全な発展と地域経済への貢献が国から高く評価されたことは、地域密着金融に取り組む当組合の姿勢も評価されたものと受け止めています。



### ■ 春の園遊会に招待

令和7年4月22日（火）、山本理事長は天皇皇后両陛下主催の春の園遊会に招待されました。同会は皇室と国を代表する方々（衆参両議院議長や内閣総理大臣、国務大臣、最高裁判所長官等）と各界の功績者が交流するたいへん名誉な会です。全国から約1,800名、うち広島県からは9名が招待を受けました。

山本理事長が中小企業を訪問する現場主義と地域密着の対応は、下表の「あゆみ」にも表れ、組織にも浸透しています。また、著書「足で稼ぐ『現場主義』経営」（平成24年9月発刊）、「融資はロマン」（令和5年3月発刊）でも表されています。その長年の功労が認められ、山本理事長は夫人と出席され、皇室をはじめ出席された方々と交流しました。



### あゆみ

平成18年 7月	広島県知事より中小企業振興功労者として表彰される
平成21年11月	その道一筋に仕事に打ち込んだ民間の人に授与される黄綬褒章を受章
平成23年 7月	中小企業庁がとりまとめる中小企業白書に当組合の取り組みが掲載
平成25年 3月	広島修道大学の特別客員教授に就任
平成25年 6月	全国信用協同組合連合会の会長に就任
平成25年10月	全国中小企業団体中央会の副会長に就任
平成30年 1月	広島県の働き方改革実践企業に認定される
平成30年 9月	NHK番組「プロフェッショナル仕事の流儀」で当組合の取り組み放送
令和 元年 8月	一般財団法人船井財団が実施するグレートカンパニーアワードで「顧客感動賞」を受賞
令和 2年12月	金融庁が主催するリージョナル・バンキング・サミット、日経新聞社が主催する地方創生フォーラム（同時開催）で講演
令和 3年11月	(株)財界研究所より「経営者賞」を受賞
令和 6年11月	中小零細企業の成長を支える功績により旭日小綬章を授章



グレートカンパニーアワード



経営者賞贈呈式